

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800071		
法人名	医療法人社団 水澄み会		
事業所名	グループホーム もやいの家うのはな		
所在地	島根県益田市遠田町179-2		
自己評価作成日	平成25年11月30日	評価結果市町村受理日	平成25年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 応援団
所在地	島根県浜田市相生町3948-2相生塚田ビル1階103号
訪問調査日	平成25年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

下肢筋力の低下予防に毎日昼食前に体操を行っている。
 皆様日課として参加されるようになっている。
 こたつスペースやソファ等自由に過ごして頂ける場所の提供ができるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民と利用者との交流の機会を作るため、午後の一時を地域の方々とお茶を飲みながら世間話をする「おはなしボランティア」を実施している。利用者から次回の開催を楽しみにする声なども聞かれ、定着している。開設9年目を迎え地域と関わりながら利用者が生活できるよう支援が行われている。
 毎月の会議や毎日のミーティングの中で利用者の思いに沿うよう気づき、意見交換・情報を共有し、チームケアを大切に支援している。平均介護度も低く、利用者は生き生きとしており、裁縫や俳句などで自分らしさを発揮し、毎朝3階のグループホームからごみを出しに行くのが利用者や職員の日課となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を元に事業所理念を掲示している。職員各々が、理念、。方針に向けて個人目標を立てその達成に向けて日々実践に努めている。	「自分がしてほしいこと」と理念をかみ砕き、毎日のミーティングや毎月の職員会議で話し合っ実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の奉仕活動、文化祭に参加している。寄り合いサロンの開催、ボランティアさんの訪問等、地域の方と交流の機会を保つように継続している。	近所の方が「お話ボランティア」として来所し利用者で交流している。地域の奉仕活動にも毎回参加し、日常的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設イベント行事を通じて講演会、介護相談を行ったり、高校生の実習受け入れをすることで、認知症の方への理解、ケア方法等、直接理解してもらえる機会を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動報告や取組みについて説明を行い意見や、アドバイスを頂くことで、新たな取組みや、改善につなげている。	畑の土づくりやつるし柿の作りかたなど生活に密着したやりとりも多く、地域の消防・警察・ボランティアまで広範囲に声かけを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、氏の担当者に出席していただけるよう日程調整したり、介護相談派遣事業の受け入れを行い、事業所の取組みや実情を直接説明出来るよう取り組んでいる。	市の担当者には随時対応していただき、相談しやすい関係を築いている。介護相談員の訪問が月に1度ある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を計画的に行っている。疑問点は、その都度話し合い職員全員で話し合い身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	2ヶ月に1回の会議の時やヒヤリハットが続いた時には「虐待防止チェック表」を見ながら読み合わせし、身体拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を計画的に行ったり、日々のミーティングの中で利用者理解、人権尊重に向けての支援の確認を行っている。また隔月で、虐待でえっクリストの読み合わせを行い自己のケアの振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し、職員全員に伝達を行い理解に努めている。成年後見人制度を利用しておられる方もいて、身近に内容を知ることができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、しっかり時間をかけて丁寧に説明を実施している。解約に至る前から、ご本人や家族様の不安の解消となる様出来る限りの支援を行い、理解・納得をして頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議、面会時、電話等で意見を伺い、職員間での情報共有を図っている。また年に一度アンケートを調査を実施し、結果に対する取組みを行っている。	家族会では普段の食事や生活を体感してもらい、利用者の生活を知ってもらった。家族から気軽に電話をかけてもらえるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミニ会議で、意見交換を行っている。またGH会議や、全体会議を行っている。個人面接も行いそれぞれの意見を運営に反映させている。	利用者ごとに担当職員が決まっており、利用者のごことを一番に考えた意見や提案が実践されている。ミニカンファを毎日行い、日常的に話をする時間が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の目標管理を確認、面談を行っており、各自の向上心を促せるように資格取得研修の機会も提供している。その結果、給与にも反映するシステムがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験、力量に合わせ、外部研修、法人内研修に参加出来るよう計画している。会議時、伝達講習を行い、日々のケアの振り返りを常にするようにし、力量アップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	益田圏域GH交流会に通じて情報交換、を行っている。また研修会や講演会等、に参加し、地域全体でのサービスの向上を進めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査、面接の段階で、出来るだけ細かくご本人の状況を把握するようにしている。居室担当を中心にご本人の要望を伺いながら支援の方法を統一し、安心して生活して頂ける関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前説明時、お話を伺い、家族様の状況を理解しながら、情報交換を行い安心して要望や、意見が言ってもらえるよう関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅時担当、ケアマネや、包括支援センター等に、相談し意見を頂きながら対応している。また、入院中であれば、病院相談員に伺いながら、ご本人にとって最もよいと思われる支援をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いを大切に、趣味や経験を生かせる場面作りをし、家事仕事は、出来るだけ協働しながら、教えていただける関係が、築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様子や、出来事をお伝えしながら家族様の思いもお聞きし、思いに添えるよう努めている。また行事への参加、病院受診、外出等の協力をお願いしながら共に支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内のデイサービスをおさなじみの方が利用時お話しして頂ける時間を提供したり、行きつけの美容院に、行きつけの美容院、墓参り等ご家族様に協力いただいている。	親戚や近所の方が来所されたときに話を聞いたり、普段の話の中から馴染みのものを把握し、美容院や墓参りなど関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者様同士トラブルとならないよう、職員は共有し連携に努めている。またご本人様の満足も得られるよう配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時に至る前から関係性を大切に信頼関係を築けるよう誠意を持って関われるようにしている。終了後も、必要に応じて出来る限りの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦の中から得意な事や、好きな事をして頂けるよう支援している。日々の関わりの中で思いを引き出せるよう関係作りに努め希望に添えるよう支援に努めている。	俳句や生け花などの趣味を継続して出来るよう支援している。他の利用者よりも早い時間に夕食を食べる利用者や自室で食事をとりたい利用者の希望に添うよう支援している。	長期利用の利用者も多いのもう一度一人ひとりの思いを拾い上げ、支援に繋げていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時点で、なるべく詳しく状況をお聞するようにし利用開始前にはご本人様、家族様の情報や意見をもとに本人様の全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な生活リズムの中で利用者様のペースで自由に過ごして頂けるよう努めている。ご本人のそさぞれの状況に応じて対応するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミニ会議、毎月のGH会議で意見交換を行いより良い支援が出来るよう取り組んでいる。またモニタリングは3ヶ月を基本にし、必要時にはプランの見直しも行う家族様の確認を頂いている。	本人・家族の要望を事前に聞き取りプランに生かしている。職員でモニタリングや意見交換を行っている。体調に変化があれば見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミニ会議で、利用者様の様子を職員間で確認し、言動行動の変化を記録している。その中で気づいた事、実践した事を介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人家族様要望や状況に応じ、可能な限りの支援に前向きに取り組むようにしている。家族への報告で意見を聞きながら、それに沿った受診や入院等もすすめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に、お話や舞踊等ボランティアに来ていただき交流の場としている。地区の文化祭には皆様で仕上げた作品を出品展示させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族様の意向に合わせたかかりつけ医での医療も受けられるよう配慮している。協力医においては、救急の往診や相談にも応じて頂いている。	月に2回協力医の往診がある。眼科や整形外科などは家族が付き添い、馴染みの病院を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に気配りできるように毎日バイタルチェックを行っている。日中の状態変化に対しては、同施設内の看護師の協力により支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人様の情報提供し、経過に合わせて相談員、医師、看護師との情報交換を行っている。家族様と一緒に医師の所見を聞くこともあり、より良い支援に繋がるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師配置がなされていないため、終末期ケアに向けた取り組みは十分ではないが、医師、職員、家族、または後見人も交えての話し合いを行ったり出来る限りのケアに努めている。	入所時と変化があった時に家族に説明を行っている。事業所で出来る範囲を説明し、家族・本人が事業所での生活を望むうちはたとえ重度化しても事業所での生活を支えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練時、心肺蘇生の実施訓練を行っている。AEDの設置もあり使用方法の訓練も行っている。また対応方法、連絡方法等、マニュアルを作成し勉強会、読み合わせを定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っている。運営推進会議に合わせた防災訓練を行ったり、地区の消防団長さんに施設を見ていただき、アドバイス等頂いている。	年に2回避難訓練を実施している。消防団長や公民館長より災害時の地域の状況についてアドバイスをもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや、対応について日々のミーティングで話し合い、接遇の勉強会を定期的に行ったり研修会を通じて深く理解する機会を行っている。	接遇に関する23項目のチェックシートを読み合わせてケアの振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様に意向を聞きながら、押し付けにならないよう自己決定できるように留意しているまた表情や態度も観察し納得されているか確認しながら支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、休む時間や場所等ご本人の希望、ペースで自由に過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は、ご本人に選んでもらえるよう関わっている。白髪染め希望され家族様と出かけられたり化粧品購入時は、職員といっしょにドラッグストアへ出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日は、必ずご希望のメニューでお祝いしたり行事料理は、利用者のお話を聞きながら取り入れられている。下ごしらえ、味見、茶碗式等は、一緒にやっている。	チラシを見て職員と一緒に買い物に行ったり、野菜の下ごしらえなども日常的に利用者が関わっている。職員も同じテーブルを囲んで楽しく食事をやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みにも配慮し飲みやすい物で水分摂取出来る様努めている。お一人お一人の状態により形態や量に配慮したり体重の変化にも気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔洗浄の声掛けを行い介助が必要な方には介助を行っているまた夜間は義歯を預かり洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自発的な動きに合わせて、トイレへの声掛け誘導を行ったり排泄の間隔を把握し失敗の軽減に努めている。	介護度が高くても紙パンツは使用せず、トイレでの排泄を支援している。声をかける利用者やあえて声をかけない利用者など一人ひとりに合った支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録チェックし職員全員が間隔の把握に努めている毎朝バナナとヨーグルトをメニューに取り入れたり、階段昇降や散歩等状態に合わせて運動となるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほとんどの方が毎日入浴希望されない時は、清拭や足浴の声掛けを行い介助が必要な方は、蒸しタオルで保清を行っている。	毎日入浴される利用者が多く、9人全員の入浴支援を行う日が多い。入浴が利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人ひとりのペースで過ごして頂いている、炬燵スペースで昼寝されたり夜間フロアで、お茶を飲まれるかもある、また季節の変化に応じて寝具の調節にも心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノートによりお一人ひとりがどんな薬を飲まれているか分かるようにしているまた、臨時薬や、変更がある時は、職員全員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の調査や家族様から得た情報をもとに介護計画を作成し、役割、楽しみのある日々となるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診時は、家族様の対応により外出され昼食をご一緒されたり、買い物や墓参り等、協力頂いているまた地区の文化祭に出かけたり季節の変化を楽しみに散歩、畑の草取り、ドライブにも出かけている。	ゴミ出しや同じ建物内のデイサービスなどに出向く際には日常的に支援している。天気がいい時は近所の散歩やドライブなども支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者の所持金の管理は、行わないが、宅配牛乳を利用され、ご自分で支払をされている方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望により電話の取次ぎを行ったりこちらから遠方の子供様とお話して頂いたりしているまた自筆での季節はがきや、行事案内など書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁画は、毎月季節が分かるよう日々の手作業による作品を展示したり、鉢植えや生け花等趣味を生かしていただけるようにしている。共有スペースの安全、衛生には、気を付けている。	利用者手作りの作品で壁が飾られている。冬場は外気との温度差が高くないよう暖房の温度に注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事は、決まった席で摂って頂いている南のベランダ側にソファコーナーを置いたり、テレビを見ながらのコタツコーナー等、自由に利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットや家具は、使用されていたものを持って来ていただいている、畳にされている方もあるまた仏壇を持ってこられている方もある。	居室の前には日常の様子を写真を貼り、面会に来た家族と利用者の話題になるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや、風呂、居室等分かりやすいよう矢印や表示をしている。ご本人の状態変化に合わせて環境整備を行っている。		